



ソフトボール大会（壮年部研修会）2009.7.19



発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-730072
 印刷・(株)才津印刷所

福音書を 読むこと

主任司祭 眞浦 健吾

四つある福音書とは何か。それは「イエス・キリストの生涯」を歴史的に書き記した四巻の書物ではない。それらは、イエス・キリストによって最初に宣べ伝えられた私たち人間に対する救いの喜ばしい知らせ、すなわち、神の福音を、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネが異なった形式で表現したものである。彼らは聖霊の導きによって、

イエス・キリストがもたらした救いに関する歴史的事実を選択し、配列し、表現したものとと言えます。すなわち、イエス・キリストへの信仰を人々の中に浸透させ、その信仰を励まし、力づけ、敵対する者から信仰を守るために書かれたものと言えるでしょう。

今年の聖書愛読マラソンは、大司教様の希望から、福音書を読む事が進められています。浦頭小教区は「マルコ福音書」を通読したいと思えます。この福音書は、最も簡潔であり、マタイ、ルカ両書の資料となった書で、伝承によれば、その時代のローマになされたペトロの説教を基にして書かれています。福音書を書いたマルコは、どんな人物であったか。彼は、当時のエルサレムの上流階級の婦人で、マリアと呼ばれていた人の息子であった。彼の家は初代教会の集会所となっていたようです。ですから、イエスの弟子たちがたくさん出入りし、彼自身小さ

い頃からキリスト信者の交わりの中で育てられたと言えます。また、彼は、バルナバの甥であり、パウロとバルナバが最初の伝道旅行に出かけた時、彼らの秘書、従者として従ったとあります。（使徒言行録12、25）マルコは、イエス・キリストを救い主でありながら、身近な一人の人間として表現しています。「神の子、イエス・キリストの福音の初め」と言う書き出しです。福音書を読むことにより、「神の子イエス・キリスト」がどんな方で、私たちを救うために、何を教え、どんなしるしをなさったか。読みながら、考える機会としたいものです。聖書を手にとって読むという事が少ないでしょう。しかし、聖書を身近に置いて、読んでみましょう。目に止まった所を読むことで、イエス様が何かを語りかけ、信仰の手助けをしてくれると思えます。

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>

霊名のお祝い

聖ミカエル・眞浦神父様

9月27日(日)、2番ミサ後眞浦神父様の霊名祝いの式が、和やかな雰囲気の中行なわれました。花束や霊的花束等の贈呈の後、信徒を代表して秦和香のどかさんが神父様に心暖まるお祝いの言葉を贈りました。そして、神父様から、「浦頭に來て5回目の霊名祝いを祝ってもらいます。これからもより良い神父になるようにがんばります。」との感謝のお言葉がありました。

その後、夕方より神羊館にて祝賀会が行なわれました。約70名の信徒や地域の人々が神父様のお祝いに集い、ある者は言葉を贈り、ある者は歌を贈り、ある者は……と賑やかな宴となりました。

『聖ミカエルの取つぎで、主のご加護がありますように』



教会めぐり

富上 成美

現メンバーでの青年会初の研修旅行で、上五島の教会めぐりに行って来ました。参加者は4名と若干さみしい人数でしたがおかげ様で小廻りの効いたコースめぐりができました。

私たちが訪れたのは約20の教会。古いもの、新しいもの、民家風のもの、現代的なもの、外観も様々で、中に入れば御像の種類や大きさ、聖歌集の置き場



所や掲示板など浦頭教会と思わず比較しながらの見学でした。



全体的な印象としては二つ。ひとつは「わかりやすさ」です。教会の入り口の看板の他、建立や歴史の書かれたボードの設置により、初めて訪れる人にもわかりやすいものでした。

それからもうひとつは、教会ならではの香りと匂いでしょうか。ある教会では訪問者ノートがあったり、無料カード(教会写真付)があったりと訪れた人への温かいもてなしのような雰囲気を感じました。

今回の研修で、自分たちの教会を示していくこと、教会の良い心持ちを保つという点で、よい経験となりました。

金祝の恵みに

感謝して

シスター 赤尾スミエ

神の限らない慈しみとあわれみ。毎度島のひかりを送っていただき、感謝しております。

今回は私ごとで修道誓願宣立五十年金祝を、去る七月三十日に迎える事ができました。

この恵みは神の計らいは勿論、神父様方をはじめ信徒の皆様や家族、親類、恩人の方々のお祈りと励ましに支えられての五十年の歩みだったと心から感謝しております。

この五十年を振り返り、私の召命は皆様方の熱心な祈りの姿にあこがれて選びとったものでした。それも実際はほとんど何もわからないで、ただ一生捧げたい気持ちで入会しましたが、無学な者には最初から出直し、休暇の度に帰省し皆様方のお祈りや暖かい言葉をかけていただき帰っております。

勉学と修練院生活七年を経て、この度この恵みに与かる事ができました。

この五十年間は福祉の手伝いをさせていただき、多くの体験をしました。

生後五〇日の乳幼児から最高百〇八才の高齢者、または御家族との関わりの中で、家族の大切さや他人との関わりの大切さを学ばせていただき本当に感謝しております。



特に高齢者の方々の信仰、祈る事の喜びを目のあたりにして反対に勇気づけられています。

体は不自由で歩行困難な状態にあっても、いつもロザリオを手にして御ミサと祈りが一番うれしいと忙しい方々に代わって祈っています。「時には祈ってね。どんな祈りでもいいからね」と・・・

本当に老いて何もできないと悩むのでなく、老いてからは祈りが仕事です。

どうぞ召命の減少しているなか、神学生・修道者の召命のためお祈り下さいませ。

皆様方のため教会の発展のため及ばずながらお祈り致します。最後まで奉獻の道を忠実に歩む事ができるようお祈り下さい。本当にありがとうございます。

神父様 信徒の皆様へ



笑いの中のソフトボール

壮年部によるスローピッチ、ソフトボールが、七月二十一日日曜日、一時から行なわれた。

回覧での参加は、35名だったものの、25名と少し寂しい人数ではあったが、2チームに別れたの試合となった。日ごろソフトをやっている人も、ほとんど運動してない人も、ボールがくると真剣そのものの、全員参加の試合となった。その後の懇親会でもほとんどが出席し、笑いの中の一日でした。



第十八回 純心子どもの集い

今年の夏も又、純心子どもの集いを行う事ができました。参加者は九名と少なかったのですが、みんなとても明るく、元気で楽しい一時を過ごすことができました。今回は「バトンタッチく生きようイエス様の愛を」というテーマで、ウォークラリーの活動を中心に五箇所で様々な人たちの信仰に生きた話を聞いて学ぶことができました。子どもたちの感想をいくつか紹介します。

子どものつどいで心に残ったことは、シスター江角さんのお話です。せんそうでせいとやシスターたちがしんでしまいました。シスター江角さんもおおけがをしましたが、いのちにべっじょうがなかったので「よかつたな」と思いました。シスターはもう学校の仕事をやめようかなと思ったけれど仕事をにつづけたことが心にのこりました。

井持浦教会

三年 待永 紗代香



一番心に残ったのは赤尾孝信神父様のお話です。自分の命も大事だけれど、他の人の命を助けて、自分はなくなくなったのでかわいそうでした。でも、助けられてすごいなと思いました。私は今日の集いで、教会のことを仏教の人にもいろいろ教えてあげたいと思いました。私はこれ

から、ミサの時に手をあわせて、たくさんのお祈りをしたいです。これからも勉強をがんばりたいです。いやなことがあっても、最後まであきらめないでやりとげたいです。

浦頭教会

五年 入口 綾乃

今日の子どもの集いで心に残った事は、グループでやったウォークラリーです。五つの場所で行った色々な事を学びました。とくに三人の人、早坂久之助司教様と江角ヤスシスター、赤尾孝信神父様が心に残りました。とくに、赤尾神父様が五島浦頭の神父様で自分の命を投げ出してまで子どもの命を救ったので、すごいと思いました。私も、自分のことだけではなく、まわりの人のことも考えられるようになりたいです。こまっている人や助けを求め

ている人にやさしく声をかけた、手を差し伸べることができるようになります。

六年 大浦 優希

私が五つの場所で、心に残った話は、赤尾孝信神父様のお話です。自分の命も大切だけど、他の人の命を助けて天国に行った赤尾神父様はすごいなと思いました。そして、昔から信仰がうけつがれてきたので、私も受けついでいこうと思いました。今日の集いで自分が持っているきれいな心をみんなに分けていきたいと思いました。最後に、ミサの時に大きな声でせいをかを歌ったり、大きな声で祈りをしたいです。

六年 沼田 華佳

また来年も子どもたちの生き生きとした笑顔を楽しみにしています。眞浦神父様をはじめ、ご協力くださいました神父様方ありがとうございました。

純心聖母会 Sr濱崎 久美

島田喜蔵神父

ものがたり(Ⅱ)

長崎ウエスレヤン大学講師(非常勤)

加藤 久雄

島田喜蔵少年は、幕末期に浦頭地区出身の母に連れられて、江袋から福江島にしばしば訪れている。福江のお城見物にもいったそうである。宿泊先は母の兄妹にあたる石山家であった。母方の親戚には、ブラジルで宣教・司牧にあたった中村長八神父もいる。

喜蔵少年は、幕末の一八六七年四月に、禁教の中、頭ヶ島でおこなわれたミサにあずかっている。その直後に、長崎に渡り大浦天主堂で洗礼を授かる。一八六七年後半から一八六八年前半頃、母と母の姉婿とともに奥浦へ渡り、潜伏キリシタンであった親類をはじめとした地区の人々に長崎の教会の情報や教理を伝えた。地区の潜伏キリシタンは、大変喜び、一日でも早く教理を勉強して洗礼を授かることを望

んだ。弱冠10歳の喜蔵少年は、公教要理の箇条をよく覚えていたので、伝道士として地区の潜伏キリシタンに要理を教えた。熱心な潜伏キリシタンが遠近の村から集まり、喜蔵少年はひっぱりだこだったという。



頭ヶ島教会堂

約一カ月間、昼夜もなく熱心な潜伏キリシタンに要理を伝え上五島に帰った。その後、奥浦村の帳方堂崎のドミンゴ、水方浦頭のミカエル、大泊のジストなどの潜伏キリシタン組織の役員が次々に大浦天主堂で洗礼を授かる。時は明治の世となるが明治政府は幕府のキリシタン禁教政策を引き継ぐ。まもなく、

五島キリシタンは「五島崩れ」という大弾圧の時代を迎えることになる。

奥浦のキリスト教遺産群(Ⅰ)

『出会い』アルメイダ宣教

長崎ウエスレヤン大学講師(非常勤)

加藤 久雄

一九七七年七月二十二日、この碑は堂崎天主堂創設百周年記念式典の際に設置された。一六世紀の五島の人々とキリスト教との『出会い』を描いた碑。この碑を刻んだのが、中田秀和画



アルメイダの宣教碑

伯である。上五島中通島鯛ノ浦出身の画伯は、島田喜蔵神父の母浦頭地区出身の自勢からみて



家となり、南山高校の教師、そして聖像彫

曾孫にあたる。中田武次郎神父の兄にもあたる。伝道士をへて、上京して洋画家となり、南山高校の教師、そして聖像彫刻家となる。カトリック美術協会会員としてカトリック芸術の第一人者として活躍した。主な作品は、大浦天主堂にあるキリスト信者発見百周年記念碑、山口市にあった旧ザビエル記念聖堂の教会堂内の絵画、鯛ノ浦教会のルルドなど。島内では、水ノ浦牢屋敷記念碑のヨハネ五島像。多才な方であり、著作も数多く、聖劇の脚本も手がけている。長崎のキリスト教史をモチーフにした、そして長崎の五島キリシタンが生んだ作品は、自らの文化を自らの手で芸術までに昇華したという意味で価値が高い。そのような価値の高い作品がこの小教区にもある。この碑は、いつまでも大切にしたい五島キリシタンの誇るべき現代文化遺産である。

夕やけマラソン ハイモーター

桐教会 浅田 照明

今年で五回目となる夕やけマラソンだが、未だに初回のタイムを上回ったことがない。

毎年スタート地では、今年ハローと意気込みで漲っているが、十キロ辺りを過ぎると、今年も何とか走り切れればいいかという思いに変わり、やがて疲労と共にさらに消極的になって、最後の五キロには何とかゴールラインに辿り着ければという情けない思いにかられてしまう。

特に、今年は全く駄目だった。練習していないので当然の結果であるが、もう少し走れるのではとたかをくくっていた。

アテネで金に輝いた野口みずき選手が「練習は嘘をつかない」とコメントしてましたが、当然ながら本場で、誰にでも、また何事においても当てはまり、弱い私には尚更であることを身を持って実感した次第であります。

走りはリズムが悪かったです。が、慰労会は、今年も楽しく、おいしく、とてもすばらしい調べを奏でていました。感謝！

来年こそ、テンポよく走り、そのままの勢いで美しい調べに合わせたい。



21キロ完走

中町教会
谷脇誠一郎

8月29日の「五島列島夕焼けマラソン」の出場に際し、浦頭教会の皆さんに大変お世話になりました。初めての参加でしたが、おかげ様で無事に完走することができました。

私が走るのをはじめたのは、5年前、神学生だった頃です。

二十代の後半、少しずつ体力の衰えを感じはじめ、お腹も少し出てきた頃、体力づくり、メタボ対策のために始めたジョギングでしたが、続けていくうちに走ることに楽しさを感じるようになりました。肉体的に疲労感を覚えますが、ストレス解消になりますし、他の学業や信業にも集中することができました。

夕焼けマラソンでは、初めて21キロを走りました。4ヶ月準備して、本番を迎え、自分でもびっくりするくらいに快適に走ることができました。走ることは、まだまだやめられないようです。



右端、谷脇神父様

奉仕作業

恒例の堂崎天主堂周辺奉仕作業が10月4日午前10時より、壮年会、婦人会浦頭二班、大泊、浜泊で行なわれた。全員なれた手付きで回を重ねる毎に作業も早く終わるようになった。

又、シメオン・アンナ友の会は、故中村長八神父様生家周辺の作業を午後1時より行なった。皆さんの奉仕に感謝。

牢屋の窄殉教祭

今年も久賀島での殉教祭が10月25日午後1時より開催されます。牢屋の窄での迫害の出来事を毎回聞くごとに、私達は心の奥からこみ上げて来る「いかりくやしき」を感じます。信徒の皆さん一人でも多く参加して、殉教者のために祈りましょう。

おたより

この度、実弟・フランシスコ赤尾帝が病氣療養中のところ、6月11日に53才にて帰天致しました。永きにわたり、島のひかりを御送付頂き、故・帝がどれだけ故郷を想い励まされ、癒されながら人生を送って来れた事か、故人共々、兄として心から感謝申し上げ、心より厚く御礼申しあげます。

北九州市 赤尾 寛悦

中村長八神父の列福調査がはじまり、本当にうれしく思います。鹿児島教区奄美で26年間、司牧宣教された神父様を敬愛し、その遺徳をたたえ、列福の日を祈っている多くの信者がいます。ブラジルそしてアジアの国々に神父様の後に続く聖なる司祭、修道者、信徒が輩出し、宣教、司牧が豊かな実りを結びますように。

霧島市 聖血礼拝修道女会
シスター 鍋内フジエ

島のひかりを送付下さいました誠に有難うございます。何よりも私の心が元気づけられます。やはり五島の人々は、すごいです。千葉や東京の方々も、もう一度、五島に巡礼に行きたいと申しております。編集部の皆様がんばって下さいませね。

市原市 山口ヨシノ

すばらしい堂崎天主堂献堂百周年記念写真集を送って頂き、心から感謝申し上げます。

いろいろの写真を見ながから、この堂崎天主堂で洗礼を受け、幼い頃より信仰を育まれたことを今、新たに感謝となつかしさでいっぱい입니다。本当にありがとうございます。

神父様と浦頭教会の信徒の皆様のために祈り申し上げます。

東京都 聖心の布教師妹会
シスター 大川ヨシノ

○永遠のやすらぎを

平成21年10月6日

ジョアンナ 梅木 カヲ
(大泊 95才)



ありがとう

台風18号は、日本列島を直撃し、多大な被害をもたらした。日本の政治も自民党から民主党へと変わり、行き先不安ばかりの世の中。そんな中に次の方々よりご芳志がありました。本当にありがとうございます。

東京都 Sr 大川 ヨシノ 様
北九州市 赤尾 寛悦 様
長崎市 川上 正春 様
市原市 山口 ヨシノ 様
大阪府 山本 利徳 様

ふるさとだよ

小・中学生

「つきあげ」に挑戦

九月二十六日、奥浦中学校家庭科室に於いて「つきあげ」を作って食べよう」という催しが開催された。これは、奥浦地区子ども教室の事業の一環として行われ、小学生七名、中学生三十六名の参加があった。調理に入る前に、長崎ウエスレヤン大学非常勤講師の、加藤久雄さんによるつきあげが奥浦地区に伝わった由来についての短い授業があった。



大村藩のキリシタンが、農業技術者として五島に渡り伝えた歴史的意味のある料理であること、また、潜伏キリシタン時代の御聖体を象徴した食べ物であると考える方もいることを知った。

奥浦中学校PTA副会長の、浦口千鶴子さんの指導のもと調理にかかった。油の中からは、アンパンマン、しいたけ、クロワッサン風など、子ども達の創造性に富んだ形のつきあげが現れ、テーブルの上を賑わせた。

椿の実取ったぞう!!

子供達が夏休みの宿題に追いかけて回される前を見図らって、「椿油でふる里の山菜を食べよう会」が催されました。

奥小の子供達二十三名が今村製油所に集合。今村さんがきれいに刈ってくれた野道を歩きながら、あぶんぜビジターセンターの出口さんの丁寧な説明のもと、一つ一つ山菜をつみ取っていき

ます。

「これ、うばゆりって言うんだけど球根はおいしんだよ。」そばにいた子が目を輝かせました。「よいしょっ。」力強いかけ声と共にそれが姿を現わしました。今度は、今村さんが「日本蜜蜂の巣を見に行こう。」と声をかけます。子供達はいっせいにかけ出します。今村さんが巣の近くにいた蜂に手を近づけても、不思議にさそうとしません。なぜささないのか？それも勉強です。

興味の虜になった子供達の目の前に斜面一杯の椿の木が出迎えました。今村さんの指示のもと、子供達は手もとに枝をたぐり寄せ、高価な実達を夢中でもぎ取っていき、それから椿製油所へ。

工場のベルトが「パタ、パタ」と心地良い響きをかき鳴らして回り始め、種が黄金色の油になっていく行程を子供達は目を凝らしながら興味深く見つめます。その後、子供達は平蔵公民館

に集合。館内は何やらおいしいそうな香りが充満。さそわれる様に台所へ入って行きます。テーブルには、奥浦地区子供教室実行委員会と地区の民生・児童委員協議会のスタッフががつくってくれたてんぶらが一杯。子供達も取って来た山菜を椿油に静かに投入し、てんぶらづくりにチャレンジ。次々に艶艶の自然の恵みが出来上っていきます。

試食会は、種明かしせず、普通のサラダ油と椿油で作ったてんぶらとどちらがおいしいか挙手。圧倒的多数をもって椿油に軍配。五島が誇る名産物が子供達の脳裏にしっかりと刻まれました。



編集後記

街角に円筒型で高さ135CMの所に口があいている物な〜に？時の政府が小学3年・4年生の子供が投函できるようにこの高さになったようですが、答えはポストです。

この学年頃になりますと文字を覚え、素朴で純粋な目で社会を見詰め、未熟であるけど正義感が育つ年令だと思えます。私達大人も、国民目線、カメラ目線、とかあろうけどもいまだ一度、目線の位置を下げ、子供目線で日々の生活を見詰め直すことも必要かも……。

以前、学校の科目にあった、『道徳』の時間が必要なのは大人かも。と子供の視線が訴えることありかも。

明治・大正生まれの筋金入りのガンコ親父の一言が懐かしく思う秋の夜長でした。

赤尾 淳